

まいいぶん 愛知

調査速報 ～ 寄元 3 号墳 ～



横穴式石室（手前が奥壁）



調査風景

寄元 3 号墳

猿投山南麓の豊田市加納町には、古墳時代後期の寄元古墳群が存在する。そのうち 3 号墳の発掘調査が行われ、6 世紀後半～7 世紀前半の横穴式石室が確認された。石室内からは勾玉・刀・鉄鏃・須恵器提瓶などの副葬品が出土している。

古代の瓦塔

(愛知県埋蔵文化財センター調査研究員 永井邦仁)

古くから人々は土と火を使って土器以外にも様々な造形をおこなってきた。縄文時代の土偶、古墳時代の埴輪などはよく知られたものである。ところで瓦塔がとうというとちょっと耳慣れないのだが、これもまた土と火による立派な造形物、やきものである。古代以降の遺跡から出土し、その分布は東日本に大きく偏っている。ちなみに瓦塔という名称は1931年に柴田常恵がつけたもので、人によっては陶塔とか土製塔と呼んでいる。やきものの塔は中世・近世においてもまれに作られるが、ほとんどが奈良・平安時代のものである。ここでは瓦塔を、古代において仏教信仰のためにつくられた五重（または七重）の土師・須恵製塔のこととしておこう。東京国立博物館に展示されているものが数少ない復元例のひとつであるが、高さがおおよそ1mから2mの規模で、屋蓋おくがいや軸などの部品ごとに焼成されたものを積み上げる構造になっている。

1. 東日本に多い瓦塔

瓦塔は東日本に多く分布するが、県別で最も多いのが群馬県58遺跡で、埼玉県53遺跡、千葉県40遺跡、と関東地方の8世紀後半から9世紀の集落跡や寺院跡からの出土が目立つ。ほとんどは土師質で赤褐色を呈し、瓦堂と呼ばれるお堂の形をしたものといっしょに出土することもある。集落の中に小さなお堂とみられる掘立柱建物があって、その付近から出土することが多い。

関東地方以外では長野県が20遺跡で、北陸の石川県や富山県がそれにつづく。集落跡・寺院跡から出土するのは関東と同じだが、生産の場である須恵器窯跡からの出土数が増えるのが特色である。福井県の4例は全て須恵器窯跡である。愛知県の瓦塔出土遺跡数は30遺跡を数え、全国で4番目である。後述するように窯跡出土が多い。

一方、近畿地方を含む西日本では、瓦塔の出土数が極端に少なくなる。ただし大阪府の五十



水入遺跡瓦塔出土遺構

村廃寺や滋賀県の衣川きぬがわ廃寺出土例のように7世紀代につくられた可能性の高い瓦塔があるのは注目される。おそらく初期の瓦塔は一部の寺院で建てられるにとどまっていたと思われる。ところが8世紀代になると、東日本では寺院だけでなく集落でも建てられるようになり、むしろこちらの方で流行するのである。

2. 瓦塔の屋蓋の2タイプ

瓦塔は他の土器と同じで、一部分が出土するというのがほとんどであるから、瓦塔と判断するためには特徴的な部分が出土することが条件である。その中で最も特徴的でかつ比較検討の対象となるのが屋蓋の部分である。屋蓋には表に瓦列、裏に垂木の表現がある。瓦列表現は、リアルなものでは丸瓦・平瓦一枚一枚を表したものもあるが、大別して2つのタイプがある。すなわち丸瓦列が一系列ずつ離して表現するタイプと、ぎっしりと丸瓦列を詰めて平瓦表現するタイプである。関東・北陸地方と長野県の屋蓋のほとんどは後者のタイプ



水入遺跡出土瓦塔片（屋蓋部）



県内瓦塔出土遺跡位置図

参考文献

- 池田敏宏 1999 「関東地方瓦塔編年と他地域瓦塔編年の比較・検討」
『研究紀要』7 財団法人栃木県文化振興事業団
- 石村喜英 1993 「瓦塔と泥塔」『仏教考古学研究』雄山閣
- 梶山 勝 1985 『尾張の古代寺院と瓦』名古屋博物館
- 柴田常恵 1931 「瓦塔」『埼玉史談』2-4

- 津金澤吉茂 1999 「瓦塔と塑像」松田猛編『上西原遺跡』群馬県教育委員会
- 永井邦仁 1999 「豊田市郷土遺跡出土の瓦塔」『年報平成10年度』
財団法人愛知県埋蔵文化財センター
- 善端 直 1994 「北陸の古代瓦塔」『文化財論集』奈良大学

プである。愛知県の瓦塔にもこのタイプが存在する。また初期のものとみられる衣川廃寺出土例もこれであり、後から考案された表現方法というわけではなさそうである。一方前者のタイプは、関東・北陸地方では若干みられる程度で、長野県塩尻市周辺や静岡県、そして愛知県の瓦塔の多くがこれに該当する。形態的にみて東海地方を中心とした地域的なまとまりがありそうである。研究の進展を今少し待ってほしい。

3. 愛知県出土の瓦塔

それでは愛知県出土の瓦塔を概観してみよう。先に須恵器窯跡出土のものと述べたが、愛知県には須恵器の一大生産地である猿投窯があり、管見によると8例にのぼる。このあたり一帯における瓦塔生産が須恵器窯中心であったことを示している。なお、共伴する須恵器から導かれる年代はおおよそ8世紀後半である。そして次に寺院跡出土が多く、近年になって集落跡からの出土も増えてきている。

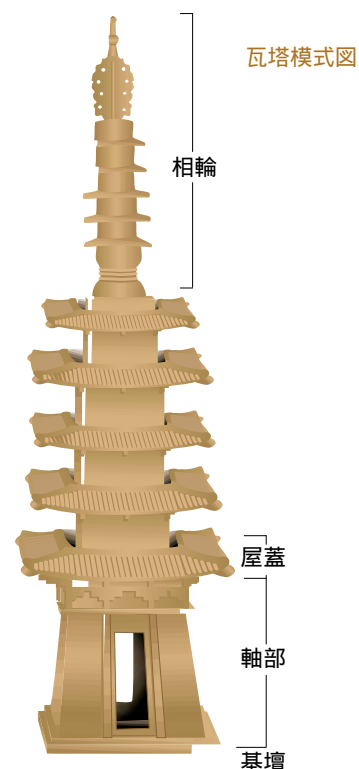
分布をみると尾張国府とその付近にやや集中する傾向がうかがえる。官衙関連の施設で建てられたものかどうかはこれまでのところ明らかでない。ただこのよ

うに国府付近に集中する傾向は注意しておく必要があらう。なぜなら、多数をほこる関東地方の瓦塔の出土遺跡を概観してみると、特に国府付近に集中する傾向は伺えないからである。例えば群馬県、かつての上野国でみると、国府所在郡である群馬郡では4遺跡にすぎないのに対し、勢多郡20遺跡、佐位郡12遺跡を数える。埼玉県と東京都を合わせた武蔵国にいたっては国府域で1点しか出土していない。これは瓦塔のありかた、そして建立した人々の層が、尾張国と上野国をはじめとする関東地方の諸国との間に違いがあったことを示しているのではなかろうか。

さて、話が尾張に集中してしまっただが、旧三河国域の状況はどうであろうか。昨年発掘調査がなされた、矢作川西岸にある水入遺跡では須恵質の瓦塔屋蓋部が出土している。水入遺跡の奈良・平安時代は特に目立つ施設のない集落だが、瓦塔の他に仏鉢形須恵器や水瓶が出土している。言うなれば関東地方の集落での瓦塔の出土状況に似ている。旧三河国域では国府や国分寺の調査も進みつつあり、今後は尾張と三河での比較検討もおこなっていく必要が出てくるだろう。

県内瓦塔出土遺跡一覧表

No.	遺跡名	所在地	出土部位	備考
1	勝部廃寺	犬山市勝部	屋蓋	寺院
2	江南市小折	江南市小折	屋蓋	
3	音楽寺遺跡	江南市村久野	屋蓋・軸	寺院・数個体が出土
4	門間遺跡	葉栗郡木曽川町門間	屋蓋	集落
5	重古城跡	一宮市丹陽町	屋蓋（軒先）	
6	浄土寺（込野遺跡）	稲沢市込野町	軸？	集落・尾張国分寺南東方向
7	正栄寺遺跡	稲沢市儀長町	屋蓋	寺院？・尾張国分寺西方
8	塔の越遺跡	稲沢市長野町	屋蓋	集落
9	寺脇（大矢）遺跡	稲沢市大矢町	屋蓋・軸	集落
10	東畑廃寺	稲沢市稲島町	屋蓋（壁体？）	寺院
11	勝川遺跡	春日井市長塚町	屋蓋・軸	寺院
12	弥勒寺廃寺	西春日井郡西春町	軸	寺院
13	諸桑廃寺	海部郡佐織町	屋蓋	寺院
14	基目寺町新居屋	海部郡基目寺町新居屋	仏像押型	法性寺跡付近
15	清林寺遺跡	海部郡基目寺町	屋蓋	寺院・草津渡推定地付近
16	折戸80号窯跡	日進市米野木南山	屋蓋・軸・基壇	窯
17	黒笹8号窯跡	三好町黒笹字野田兼	軸	窯
18	黒笹31号窯跡	三好町筋生字山ノ神	屋蓋	窯
19	黒笹35号窯跡	三好町筋生字辰巳山	屋蓋	窯
20	神沢古窯跡	名古屋市長区鳴海町神ノ倉	屋蓋	窯（NN-220号窯跡）
21	NN-32号窯跡	東郷町春木字涼松	屋蓋	窯
22	NN-286号窯跡	名古屋市長区鳴海町亀ヶ洞	屋蓋（軒先）	窯
23	伊保白鳳寺跡	豊田市保見町	屋蓋	寺院
24	舞木廃寺	豊田市舞木町	屋蓋	寺院
25	水入遺跡	豊田市渡刈町	屋蓋	集落
26	郷上遺跡	豊田市鷺鴨町	屋蓋・軸（初軸）	集落
27	矢作川河床遺跡	岡崎市域矢作川河川敷	屋蓋（六角塔？）	
28	真福寺東谷遺跡	岡崎市真福寺町	屋蓋	寺院・中世墓地
29	市道遺跡	豊橋市牟呂町	屋蓋・軸	寺院区画内での出土
30	折戸23号窯	日進市南ヶ丘	屋蓋	窯



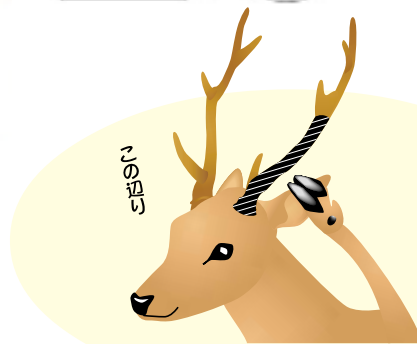
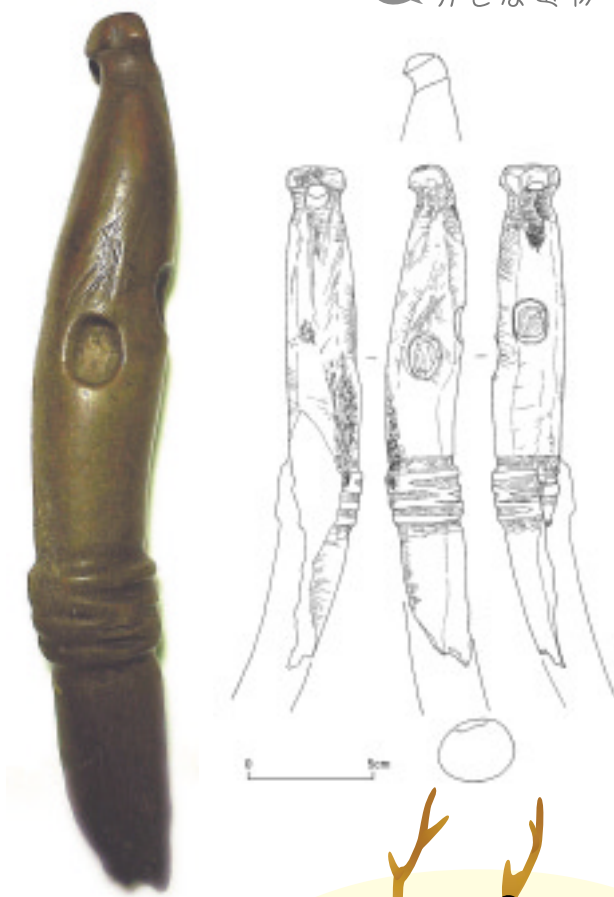
朝日遺跡出土の棒状鹿角製品

を! かした遺物 No.4

朝日遺跡では、昨年度の調査で谷A(99Bb区NR01)内に形成された弥生中期中葉貝田町式の土器を多く出す貝層から、非常に優れた装飾の見られる鹿角製品が出土しました。

「棒状加工品」とか「棒状短剣」などと呼ばれているもので、材には左側の鹿角の角幹が使われています。材は角枝が落とされ、鹿角の表面にある自然の凹凸がよく磨かれてなくなっています。もともと角座であった部分には垂飾できるように穿孔が施され、その下には直交する方向にて盲孔が2つつけられています。さらにもっとも注目されるのはかつて第一枝のあった部分近くに施された、3 cmほどの文様帯です。これは、縄文晩期末の東日本の土器に付けられている工字文と呼ばれる模様であり、その関連性が伺えます。残念ながら現存しているのは、角座部分から第2枝直下までに相当する部分のみですが、この遺物が弥生時代中期前葉に属するという発掘調査の所見と照らし合わせると、伝世などさまざまな状況を考えてくれる第一級の資料と言っても過言ではないでしょう。

(愛知県埋蔵文化財センター調査研究員 川添和暁)



編集後記

「まいぶん愛知」と当センター「ホームページ」では、調査や出土資料に関する情報を旬のうちに届けたいと考えています。昨年度スタートしたホームページも順調に更新を重ねています。さて、「なんでも質問コーナー」へはなかなかスルドイ疑問が寄せられ、苦しい回答をすることもしばしば。期待にお応えできるよう努力いたします。

これからも様々なご意見など
お寄せ下さい。



まいぶん愛知 No.61

発行 平成12年6月15日

編集 (財)愛知県教育サービスセンター
愛知県埋蔵文化財センター

〒498-0017

愛知県海部郡弥富町前ヶ須新田野方802-24

TEL 0567-67-4163 FAX 0567-67-3054

http://www.maibun.com E-mail:doki@maibun.com

印刷 クイックス